

第102回経営協議会議事要旨

日時 令和7年6月23日(月) 13時00分～14時20分
場所 本部4階大会議室(Teamsによる遠隔会議併用)
出席者 学内委員:上田学長, 荒木理事, 秋光理事, 野口理事, 真鍋理事, 国分理事
学外委員:金子委員, 木下委員, 佐伯委員, 西原委員, 藤岡委員, 山本委員
欠席者 学内委員:なし
学外委員:綾田委員
陪席者 平野副学長, 小方副学長, 吉田副学長, 松木副学長, 原副学長, 和田副学長,
門脇副学長
頼富監事

1. 審議事項

(1) 令和6事業年度決算について

国分理事から, 審議資料1-1～1-4に基づき, 令和6事業年度決算について説明があり, 審議の結果, 原案を了承した。

2. 報告事項

(1) 令和7年度科学研究費助成事業の獲得状況について

秋光理事から, 報告資料1-1～1-3に基づき, 令和7年度科学研究費助成事業の獲得状況について報告があった。

(2) 第4期中期目標・中期計画の変更認可について

野口理事から, 報告資料2及び参考資料に基づき, 第4期中期目標・中期計画の変更認可について報告があった。

(3) 中期目標・中期計画に係る令和6年度自己点検結果について

野口理事から, 報告資料3-1～3-2及び参考資料に基づき, 中期目標・中期計画に係る令和6年度自己点検結果について報告があった。

(4) 令和6年度香川大学における内部質保証の実施について(「組織・運営等」分野)

野口理事から, 報告資料4及び参考資料1～2に基づき, 令和6年度香川大学における内部質保証の実施について(「組織・運営等」分野)について報告があった。

(5) 教職大学院認証評価結果について

野口理事から, 報告資料5-1～5-2及び参考資料1～2に基づき, 教職大学院認証評価結果について報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○評価する側もされる側も多大な労力を要しており、こうした評価制度が本当に学校教育の質の向上につながるのか。

○国による画一的な教育の方針が見受けられる中で、本来、学校はそれぞれの特色や独自性を活かしながら、より良い教育機関を目指すべきではないか。

(6) 令和6年度医学部附属病院の経営状況について

門脇副学長から、報告資料6に基づき、令和6年度医学部附属病院の経営状況について報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○借入金返済のピークを迎える厳しい状況の中で、病院長をはじめとする関係者のご努力により、成果が少しずつ現れている。年度末にかけて病床稼働率も上昇傾向にあり、今後も引き続き、取り組みを継続していただきたい。

○支出の内訳である「設備投資費」の項目において、実績額が予算額に比して約3.7億円減少している。この要因として、入札等により購入価格が想定より安価となったためなのか、あるいは医療機器の選定においてグレードを下げるなどの対応により費用抑制を図った結果なのか、理由を教えていただきたい。

→本理由について、確認のうえ改めての回答としたい。

(7) 令和6年度監事活動状況報告及び令和7年度監事監査計画について

頼富監事から、報告資料7-1～7-2に基づき、令和6年度監事活動状況報告及び令和7年度監事監査計画について報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○今年度の監査計画については、昨年度と比較して、「コンプライアンス」に関する記述が充実しており、評価出来る内容となっている。「コンプライアンス」は教職員にとって極めて重要なテーマであり、まずは学部長をはじめとする管理職層から意識付けを徹底し、その上で効果的な研修を実施していくことが重要である。今後、その点に一層力を入れて取り組んでいただきたい。

3. その他

(1) 卒業生活躍ランキングについて

学長から、資料1に基づき、日本経済新聞社と就職・転職支援の日経HRが共同で実施した「企業の人事に聞いた卒業生が活躍している大学調査」において、香川大学が中国・四国地域でランキング1位になり、全国ランキングでも中四国地域の大学として唯一20位台に入るなど、高い評価を受けたことについて報告があった。

本議題に係る学外委員からの主な意見は次のとおり。

○これまで香川大学が実践的な教育や人材育成に力を入れてきた取り組みが、着実に成果として表れており、大変喜ばしい。創造工学部の設置やリスクマネジメント・危機管理の教育推進など、社会のニーズに柔軟に応じる姿勢が、他の国公立大学には見られにくい特色として評価されているものと考えられる。今後もより一層、努力していただきたい。

以 上